



セネガルの子どもたちに教育を！

# バオバブの会 ニュースレター

2012年 No.1

(通巻22号)

1月21日発行

2月も半ばを過ぎ、寒さの中にも、春の兆しが少しずつ感じられるようになりました。

皆様方にはお元気でお過ごしでしょうか。

バオバブの会では、去る2月5日、年次総会を開催し、任意団体としての5年目をスタートしました。

本年もまた、着実な活動を展開してまいりますので、一層のご支援をお願い申し上げます。

## ★ 年次総会報告 ★

2月5日(日)、横浜駅西口の神奈川県民サポートセンターにて、2012年度の年次総会が開かれ、運営委員改選、2011年度活動報告、2011年度決算、2012年度活動計画、2012年度予算などに対し、討議がなされました。

一部をご紹介します。

### ●新運営委員・会計監査

\*2年の任期満了に伴い、改選されました。

会長	ディウフ
副会長	坂本
事務局長	水野
副事務局長	田口
会計	飯山
会計監査	高橋

\*\*2期4年間にわたって会計監査を務めてくださった曾我さん、ありがとうございました。

### ●2011年度のセネガルへの支援活動

・サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ小学校、サルム・ジャネ中学校、運営委員会の改善が確認されたサルム・ジャネ小学校と、AESEH(障がい児童を支援する教師の会)に定期支援金(サルム・ジャネ中学校のみ100,000円、他は50,000円)を送りました。

・サーバシ・チャム小学校図書館には、本の補充と図書館外壁補修費用(合計で120,000円)を送りました。同図書館は、6月20日、開館しました。

・学校と父兄の自助努力で始まったンジャゴ小学校のコンクリート教室建設を完成させるために、支援金(約100,000円)を送りました。

・ンジャゴ小学校にベンチ付き長机75個を贈りました(製作費、輸送費を合わせて約370,000円)。その後、サルム・ジャネ中学校のベンチ付き長机75個の製作にとりかかり、2011年度中には3分の2までできあがりしました。

## ●2012年度の活動計画（国内）

- ・セネガル物語（2月25日神奈川公会堂、詳細は前号を参照）、NGOゴスペル広場のチャリティー・コンサート『GOSPEL FOR PEACE』（詳細は後記）に参加。
- ・『アフリカン・フェスタ 2012』、『よこはま国際フェスタ 2012』（両フェスタ共、開催日時・会場未定）にも参加する予定です。
- ・『福引き 2012』を行います。 \*12月初旬に抽選パーティーの予定です。
- ・バオバブの会ホームページが、まもなく開設されます（3月1日を予定）。

URLは <http://the-baobab.org> です。

どうぞお楽しみに！

## ●2012年度の活動計画（国外）

- ・サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ小学校、サルム・ジャネ中学校、サルム・ジャネ小学校と、AESEH（障がい児童を支援する教師の会）に、定例の援助金を送ります。
  - ・また、新たな定例支援先の候補について検討しました。
  - ・サルム・ジャネ小学校の教室増設と、それに伴い、ベンチ付き長机を贈る予定です。
  - ・サーバシ・チャム小学校に図書補充と建物修理費用を贈ります。
- また、図書館運営と図書館活動の充実を支援します。



★★ イベント案内 ★★

NGOゴスペル広場主催チャリティ・コンサート

『GOSPEL FOR PEACE』 [http://www.gospelhiroba.com/html/news\\_gp2012.html](http://www.gospelhiroba.com/html/news_gp2012.html)

♥日時：2012年3月20日（火・祝日）15：00 開場 15：30 開演 19：30 終演

♥会場：新宿文化センター大ホール



(地図は同センターホームページのものを流用しました)

所在地： 〒160-0022 新宿区新宿 6-14-1 TEL. 03-3350-1141

新宿駅東口より、徒歩 15 分

♥入場料：前売り1,800円 当日券2,300円（全席自由）

前売りチケットのお求めは、チケットぴあその他ファミリーマート、サークルK、サンクスでどうぞ。

♥出演：GOSPEL SQUARE サニーサイドゴスペルクラブ ナナ・ジェントル シャニータ ヴィンセント他

「楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力となる」を合言葉として、ゴスペルを通じた国際協力活動を展開するNGOゴスペル広場が、年に1回開催するチャリティコンサートです。コンサートの収益は、バオバブの会を含む5つの国際協力ボランティア団体に寄付されます。バオバブの会は、2010年に続き2回目の参加となり、ロビーにて、展示による活動紹介とケベサック（セネガルの女性グループ製作の布バッグ・ポーチ）やアフリカ関連絵本・児童書他の販売を行います。

多くの皆様のご来場をお待ちしています。

## ★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★ 第2回 『きずな』

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ (訳・文責 水野)

「きずな」は自然界においても存在する法則です。それは必要なものであり、義務でもあります。人間界では体のそれぞれの部分の間、また、社会の中で人と人との間にあり、動物界にも、さらには、生命はないと言われている物同士の間にも存在します。

人間の体の中の「きずな」について、エチオピアのガラ人は「目が涙を流せば、鼻は鼻水を出す」と言います。カメルーンのコシ人も、やはり頭の部分に関して、同様の現象を見つけました。「頭が叩かれたとき、歯は笑えるだろうか？」です。このような「きずな」、つながり、共感や助け合いは、近い器官同士の間だけに存在するわけではありません。コンゴ民主共和国(昔のザイール)のバクシュ人は、この現象をより広い範囲で観察し、「顎が何かを食べなければ、脚は歩き出せない」と言います。

このように、人間の体はひとつの機械のようなものなので、「きずな」の必要性を最も良く表して、数え切れないほどの例があげられます。が、きずなが必要なのは人間だけではありません。ガラ人はそれをこう言って教えてくれます。「1本の枝を燃やすと煙は出るけれど、火は出せない」。その通りですね!

「きずな」の必要性はあらゆる状況にあてはまりますが、とりわけ不幸な場面で重要です。セネガルのセレール人はこう言います。「本当の兄弟は、ピーナッツの収穫のときではなく、葬式のときにわかる」。セネガルの農民にとって、ピーナッツの収穫が意味するもの、それは「1年で最も豊かなとき」なのです。収穫したピーナッツを売って、1年間の収入のほぼすべてを手に入れるからです。それによって毎日の食事がより良くなり、町へ出かけて、新しい服や他の必要なもの、生活をより快適にするものを買うことができるのです。ですから、ピーナッツの収穫のときにあなたのところにやってきて、「私は兄弟だよ!」と言う人は、あなたのお金が欲しいだけかもしれません。けれども、葬式のときに来てくれる人はどうでしょう?

不幸なときの「きずな」は、人間の場合だけでしょうか?もちろん違います。ガボンのピグミー人はこう言います。「蟻を1匹踏み潰すと、蟻の仲間がみんなで噛み付く」。

最後に、ガボンのマソング人のことわざを紹介します。彼等は、自然界のものや動物同士の「きずな」については、特に何も言いません。それらは無意識に自然の法則に従っているように見えるからです。が、人々に対しては、相手のお金や才能や体力や知力に関係なく、人と人との間の「きずな」の大切さを語り、より強くしようとします。このように言いながら。

「言っではいけないこと。それは、<私は一人で踊る1枚の葉っぱ>」。

### バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059

E-mail : hajmass@hotmail.com

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行 八重洲通り支店普通口座

no.1523673 ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215